

国際センター通信(No.129)

会長就任あいさつ

第111代土木学会会長に就任した田中 茂義です。宜しくお願い申し上げます。

土木学会は『JSCE2020』において、安全・安心、国際、コミュニケーション、人材の4つの中期重点目標を策定し、様々な施策を展開してきました。

2020年以降の会長特別プロジェクトを振り返りますと、2020年度には家田 仁会長の下、『日本のインフラの体力診断』を行い、道路、河川、港湾など日本のインフラが諸外国と比べて不十分であることを明らかにすることなどに取り組みました。

2021年度には谷口 博昭会長の下、『コロナ後の土木のビッグピクチャー』を描き、国民の視点に立ち、より良い生活の基盤を形成すべく、インフラ整備の将来像についての提言がなされました。

2022年度には上田 多門会長の下、『土木のグローバル化』をテーマに、我が国の土木技術の国際展開や、土木技術者や研究者がグローバルに活躍できるための人材育成などの課題解決についての提言がなされました。

これらの会長特別プロジェクトは、我が国における更なるインフラ整備の必要性やこれに対する土木技術者の役割の大切さ、国民のウェルビーイングに資する土木の貢献の大きさを再認識させるものであります。また、広範な分野で貢献できる土木の魅力とその未来像を描くとともに、我が国の土木技術者が内外で活躍できるような取り組みを推進するものでもありました。

これらに続く2023年度は私が委員長となって、『土木の魅力向上特別委員会』を立ち上げ、インフラ整備や災害対応、カーボンニュートラルリティなど、幅広く社会的課題に貢献する土木の認知度向上と土木技術者の地位向上に取り組んでいくつもりです。皆様も感じておられると思いますが、土木の果たしてきた社会的役割に比し、土木に対する世の中の見方や評価は残念ながら我々が期待するものになっていません。様々な分野でいきいきと活躍している土木技術者の姿と土木の魅力を、我々自身が世の中に正しく発信する必要があると考えます。

具体的な活動としては、上記特別委員会の下に『魅力ある土木の世界発信小委員会（松永 昭吾委員長）』と『土木技術者ステイタスアップ小委員会（今西 肇委員長）』を設置します。

前者では、土木の魅力を一般の人に理解してもらうコンセプトムービーの制作や、宣伝役となるアンバサダーの選定に着手します。また、これまでの代表的なプロジェクトや画期的な技術を後世に継承するための活動も展開していきます。黒部第四発電所や、青函トンネルのような過去の大規模プロジェクトを掘り起こし、再評価して語り次ぐとともに、アーカイブとして保存しいつでもアクセス可能なものとしします。



田中 茂義
土木学会 第111代会長

後者では、地域建設業やメンテナンスの現場で活動する技術者など多様な領域で活躍する土木技術者に焦点を当て、様々な視点から土木の魅力や技術者の能力向上、技術の継承などの課題について取り組み、情報発信します。地域活性化や次世代育成がキーワードとなります。また、土木技術者のステイタスについて、保有すべき品格や卓越性、そしてステイタスを表すのにふさわしい名称についても考察する予定です。

これからの土木の目指すべきひとつの方向としては、『人がいきいきとする環境とレジリエントな社会の実現』と考えます。これは人口減少が国力の衰退につながらないような社会基盤づくりでもあります。

我々土木技術者には創造性、柔軟性、多様性が求められるとともに、基本的な資質として視野の広さや旺盛な好奇心が不可欠です。我が国の芸道の世界には「守破離（しゅはり）」という言葉がありますが、我々土木技術者も将来を見据え、その技術や伝統を進化させ、イノベーションを達成して新しい価値創造に邁進すべきでしょう。

皆様、宜しく御願ひ申し上げます。

【会長就任にあたっての土木の魅力伝えるコンセプトムービー】

・こちらの URL からアクセスしてください。

https://committees.jsce.or.jp/2023_Presidential_Project/node/9



アジア土木学協会連合協議会(ACECC) 第 42 回理事会(濟州島)参加報告

1. 概要

ACECC (The Asian Civil Engineering Coordinating Council) は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として 1999 年 9 月に設立された組織である。ACECC の最高議決機関である理事会 (Executive Committee Meeting, ECM) は、加盟学協会の持ち回りで年に 2 回開催されている。今回は ACECC 事務局が Korean Society of Civil Engineers (KSCE) に移行した最初の ECM であり、通例に従って次回アジア土木技術国際会議 CECAR10 の開催予定地である韓国の濟州島で開催された。なお、ECM 行事に加え、TC18、TC27 と Future Leaders Forum (FLF) のセミナー、および後述する Strategic Planning Goal 2 (SPG2) セッションが併催された。本邦土木学会 (JSCE) からは、ACECC 担当委員会の山口 栄輝 JSCE 代表 (九州工業大学)、加藤 浩徳委員長 (東京大学) と筆者が参加した。また、SPG2 セッションには上田 多門 JSCE 会長 (当時) が参加し、ECM にも同席頂いた。



ECM と記念撮影

2. 理事会 (Executive Committee Meeting, ECM)

技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM) では、現在活動中の 13 の技術委員会 (Technical Committee, TC) の活動報告が行われた。JSCE が Chair を務める TC21 (Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters) と TC28 (Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance) について筆者と山口代表がそれぞれ報告を行った。活動報告のほか、TC18 (Adoption of Standard Operating Procedures for Design, Construction and Maintenance of Long-Span Bridges)、TC22 (Retrofitting and Strengthening of Existing Infrastructures) と TC24 (Gender and Development in Infrastructure) の活動期間延長、TC14 (Sustainable Infrastructure Capacity Building) と TC17 (Ethical Practices to Reduce Corruption) の終了が報告された。なお、TC14 については Sustainable Infrastructure Capacity Building と題した後継の TC が提案され、TC31 として設立が了承された。

企画委員会 (Planning Committee Meeting, PCM) では、公式参加を希望するスリランカ技術者協会 (Institution of Engineers, Sri Lanka, IESL) の Dr. Kamal Laksiri がオブザーバー参加し、IESL について紹介した。IESL は 1906 年に設立された歴史のある組織で、24,000 名の会員の約 60% が土木技術者であることなどが紹介され、加盟について ECM で採決することとなった。その他、前回アジア土木技術国際会議 CECAR9 を開催した ICE, I より会計報告があったが、詳細な領収書などを明示した上で再度報告するよう求められた。

ECM では TCCM、PCM での決定事項が了承された。なお、本 ECM において Financial Committee の Chair に加藤委員長が任命され、今後 3 年間の ACECC の財務状況を監査することとなった。最後に ACECC の新会長である Prof. Jae-Woo Park より所信表明があり、CECAR10 の準備状況の詳細や HP の充実などに重点を置くことなどが表明された。

3. SPG2 (Strategic Planning Goal 2) セッション

ACECC では、2020 年より Strategic Planning Meeting が複数回開催され、2019 年東京開催の CECAR8 で発出された中長期計画 Tokyo Declaration を確実に進めるため、6 つの Goal が設定されている。このうち Goal 2 は“ACECC will develop initiatives and acquire civil engineering technologies to address challenges facing Asia.”が目標として設定され、加藤委員長が Leader に任命されている。加藤委員長を含め、Future Leaders Committee (FCL) の Dr. Suraj Gautam (Nepal Engineer's Association, NEA)、Dr. Asih/Prasanti W. Sarli (Indonesian Society of Civil

and Structural Engineers, HAKI)、JSCE の井上雅志 ACECC 担当委員会幹事長と筆者の 5 名で Task Force を結成し、今後の ACECC に必要な活動や TC 活動の活発化に関する議論を行ってきた。

今回の ECM では SPG2 セッションを開催し、Task Force の活動報告の一つとして、過去の Declaration と TC や SDGs との関係に関するレビュー結果などを筆者から紹介した。その後、JSCE の上田多門会長、American Society of Civil Engineers (ASCE) の Ms. April Lander、KSCE の Jun-Haeng Heo 会長より各学会が描く土木業界の将来像を紹介頂き、“ACECC’s Challenges and Visions in Civil Engineering” と題した Panel Discussion を行った。パネリストは上記の発表者に加え、FLC の Chair である Dr. Suraj Gautam にもウェブ上で参加頂き、加藤委員長がモデレートした。ディスカッションでは、SDGs に挙げられているものの TC では取り上げられていない貧困問題に関連する活動の必要性などについて議論された。これまでにこのような議論を ACECC 内で行ったことがなかったため、聴講者からは好評であった。Task Force は、これを踏まえた報告書を作成し、今後の ACECC 活動を提案する予定である。



Strategic Plan Goal 2 Session
(右から Heo 会長、Ms. Lander、
上田会長、加藤委員長、筆者)

4. おわりに

今回、KSCE を中心とする新事務局が開催する最初の ECM であったが、運営も素晴らしく、有意義な議論ができた。次回は Chinese Institute of Civil and Hydraulic Engineering (CICHE) 主催で 10 月に台北で開催される。これは CICHE 設立 50 周年イベントの直前に開催され、共同イベントの開催も予定されている。JSCE から多くの参加者を派遣したいと考えている。

【記：ACECC 担当委員会 副委員長 井澤 淳（（公財）鉄道総合技術研究所）】

お知らせ

【今後の予定】

◆ふくろう多門のビデオレター 最終回 (No.19) 公開

https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH

◆（8月22日開催）世界で活躍する日本の土木技術者シリーズシンポジウム 第22回 「 Bangladesh カチプール・メグナ・グムティ橋梁プロジェクト及びジャマナ鉄道橋プロジェクト」

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/345>



- ◆令和5年度 土木学会 会長室
<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>
- ◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」
<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>
- ◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)
http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2023
- ◆D&I カフェトーク 第37回 D&Iに満ちた土木業界を目指す！挑戦し続けるグローバルエンジニア
<https://note.com/jsce/n/n697002fc2b01>
- ◆オープンキャンパス土木学会 2023 (7/22 開催)
<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter0103/node/16>
- ◆第43回地震工学研究発表会 (9/7-8 開催@沖縄県那覇市) ※投稿期限：7月31日まで
<https://committees.jsce.or.jp/eec231/node/22>
- ◆第68回土木計画学研究発表会・秋大会
<https://jsce-ip.org/2023/05/10/ip68/>
- ◆第193回論説(2023年6月版) オピニオン
(1) 地質リスクマネジメントと地質・地盤技術者の役割
<https://note.com/jsce/n/ned93b9525577>
(2) カーボンニュートラル社会の実現に向けたコンクリート工学の挑戦
<https://note.com/jsce/n/n9ffd747739db>
- ◆土木学会誌 2023年7月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆国際交流基金 インド太平洋パートナーシップ・プログラム (JFIPP リサーチ・フェローシップ)
<https://www.jpf.go.jp/j/project/intel/exchange/jfipp/research/index.html>
- ◆大河津分水 通水 100 周年
<https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu100th/ohkouzu100th.html>
- ◆ユニオンチェーンブリッジ 200 周年記念式典
<https://twitter.com/TICCIHBrit/status/1676964058447355908>
<https://www.northumberlandgazette.co.uk/news/people/union-chain-bridge-restoration-honoured-with-special-international-plaque-4211282>
<https://www.thesouthernreporter.co.uk/news/people/top-recognition-for-union-chain-bridge-4211510>
<https://www.newcivilengineer.com/latest/union-chain-bridge-formally-designated-as-an-historic-civil-engineering-landmark-07-07-2023/>
<https://www.facebook.com/unionbridgefriends>
- ◆The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023) : <https://tisdic2023.dut.udn.vn/>
- ◆CECAR10 : <http://www.cecar10.org/>
- ◆ASCE 2023 CONVENTION, CHICAGO (October, 18-21)
<https://convention.asce.org/>
- ◆KSCE 2023 CONVENTION (October, 18-20)
<https://eng.ksce.or.kr/activities/act01.asp?idx=60&page=1&sfield=>xt=&byy=&gbns=1&ctop=MN0335&htop=MN0323&ptop=MN0323&smm=&btype=&bgbn=R>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。